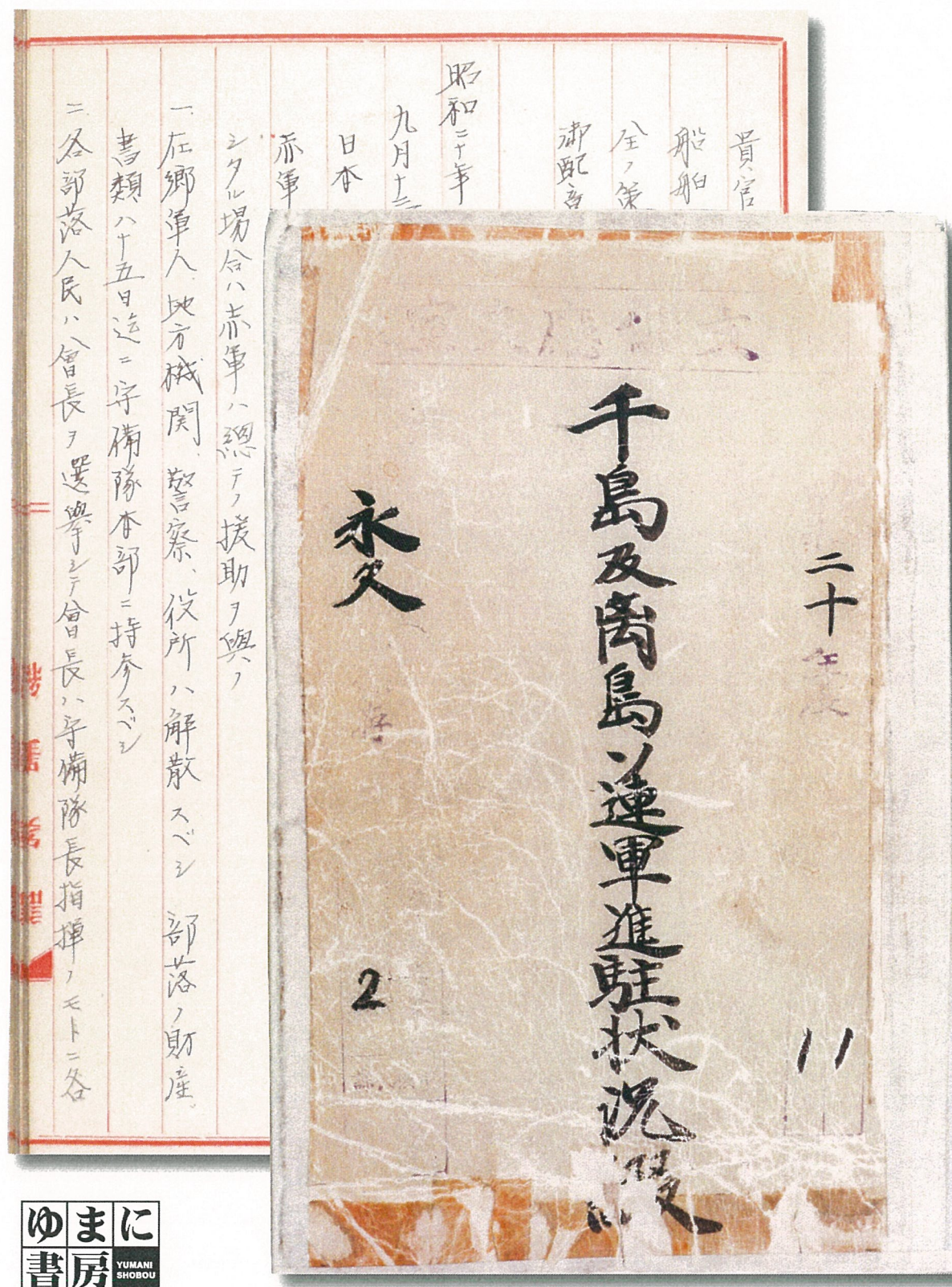


北海道立文書館所蔵

戦後千島関係資料

◆監修・解説◆ 黒岩幸子 岩手県立大学教授

全4巻



敗戦直後、ソ連による占領を記録した「千島及離島ソ連軍進駐状況綴」、および領土復帰をめぐる行政資料を収めた文書群。

北海道立文書館所蔵

戦後千島関係資料 全4巻

【監修・解説】黒岩幸子 ●揃定価：本体98,000円＋税 ISBN978-4-8433-5559-6 C3321 2019年7月刊行予定

敗戦直後、千島列島内の役場と根室支庁との連絡を収録した「千島及離島ソ連軍進駐状況綴」は、近年、北海道立文書館に移管され、閲覧が可能となった。この史料は、ソ連による千島占領を記録した日本側唯一のものであり、北方領土問題の起点を研究する上で、極めて価値が高い。この他にも、道立文書館は領土復帰を目指す道行政や元島民からの陳情、漁民の安全操業等に関する史料を所蔵しており、これらも北方領土をめぐる歴史研究には欠かせない。本資料集は、平和条約締結に向けて日露両国が動きを見せている昨今、考察の材料を広く提供するために、出版するものである。

全4巻の構成

A5判上製／カバー

- ◆第1巻 千島及離島ソ連軍進駐状況綴 定価：本体24,500円＋税 ISBN978-4-8433-5560-2
- ◆第2巻 千島に関する資料／会議関係 定価：本体24,500円＋税 ISBN978-4-8433-5561-9
- ◆第3巻 昭和三十三年 領土復帰関係書類 定価：本体24,500円＋税 ISBN978-4-8433-5562-6
- ◆第4巻 自昭和三十三年 陳情要望事項に関する綴／解説 定価：本体24,500円＋税 ISBN978-4-8433-5563-3

関連企画のご案内

復員関係史料集成

【編集・解説】浜井和史 全12巻
復員業務の実務を担った部局や旧軍関係者による編纂資料を中心に集成。膨大な公文書や当事者の回想などによって構成された、復員の実態を示す基本史料。 ●揃定価：本体200,000円＋税

戦争調査会事務局書類

【編集・解説】広瀬順昭 全15巻
敗戦直後、敗北の原因や実相を日本人の手で調査した幻の文書群。幣原喜重郎総理自らが総裁となり各専門家が参集。敗戦直後の日本の平和構想に密接した記録。 ●定価：本体280,000円＋税

戦後日中交流年誌

【解説】大澤武司 1945～1972 全17巻
戦後から国交正常化に至る国交のない約28年間の日中間の交流概況と詳細な日中交流年表。重要協定や取決め、声明文など、戦後日中関係史必備の基礎資料集。 ●揃定価：本体255,000円＋税

海外引揚関係史料集成

【監修・編集】加藤聖文 全35巻＋CD-ROM 2
※販売：紀伊國屋書店ホールセール部 ●揃定価：本体806,000円＋税
◆国内篇 全16巻 揃定価：本体320,000円＋税
◆国外・補遺篇 全19巻＋CD-ROM 2 揃定価：本体486,000円＋税

昭和天皇戦後巡幸資料集成

【監修・解説】瀬畑 源 全18巻
新憲法下において日本人は「人間」天皇をどのようにとらえたか。戦後巡幸の公式記録「巡幸誌」をできる限り収集・復刻。戦後天皇制の出発点を検証する資料群。 ●揃定価：本体290,000円＋税

LT・MT貿易関係資料

愛知大学国際問題研究所蔵 【編】嶋倉民生／井上正也 全8巻
日中国交未確立の時期に、経済面のみならず政治交渉のチャンネルとしても日中国交正常化の原動力となったLT・MT貿易の全貌を示す。 ●揃定価：本体183,000円＋税

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL 03 (5296) 0491
FAX 03 (5296) 0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方● 日ソ関係史、外交史、アジア史、政治史、国際関係史、近現代史全般の研究者。大学および研究機関の図書館。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日	※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。
北海道立文書館所蔵 戦後千島関係資料 全4巻 揃定価：本体98,000円＋税 ISBN978-4-8433-5559-6 C3321	取扱店
ご注文書 お名前 ご住所 TEL ()	セット

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU

刊行にあたって

黒岩幸子

第二次世界大戦末期に対日参戦したソ連は、日本によるポツダム宣言受諾後の一九四五年八月一八日に北千島に侵攻、九月五日までに歯舞群島を含む千島全島を占領した。今なお日口間の最大の懸案である領土問題の発端である。

北海道立文書館が所蔵する簿冊五点を影印形式で全四巻に収めた本資料集は、敗戦直後から一九六四年までの約二〇年にわたる、千島をめぐる主として北海道の状況を赤裸々に示すものだ。北海道根室支庁（四点）と北海道総務部（一点）が作成した簿冊には、島民の聴取記録、電報、陳情書、決意書、声明文、各種会議の議事録、行政書類、千島の概要を示すデータ、日口外交に関する情報など多岐にわたる文書が集録されている。合わせて二、二〇〇頁に及ぶこれらの貴重な資料は、日口領土問題に関する基本文献の一つと言えるだろう。

特に『千島及離島ソ連軍進駐状況綴』（第一巻）は、占領直後の緊迫した状況を島民自身が伝える唯一の公文書として永久保存されている。第二、四巻は、「千島の放棄」を定めたサンフランシスコ平和条約（一九五一年）と「平和条約締結後の二島（色丹・歯舞）引き渡し」を明記した日ソ共同宣言（一九五六年）をめぐる関係者の動きを明らかにする。

講和会議前の道内は、立場によって返還要求の範囲が、南千島、千島全島、樺太千島の三つに分かれて一致しない。日ソ共同宣言後は、冷徹な現実を受け入れて二島返還に望みを託すが、その実現は年を経ることに遠のく。資料からは、国際情勢や日口外交に翻弄される元島民や漁業者、また対応に苦慮する根室や北海道の姿が浮かび上がる。

その重要性にも関わらず、本資料集にまとめられた文書がこれまで注目されなかった理由は二つある。まず、一九六〇年代後半から日本政府が「北方領土返還」で国論を統一し、メディアもこれに迎合したことだ。「南千島」という呼称は禁じられ、四島返還以外の主張は封じられた。次に、学者や専門家が国際政治や日口外交の枠組みだけで領土問題を論じ、肝心の当事者や地元に関心を払わなかったことだ。

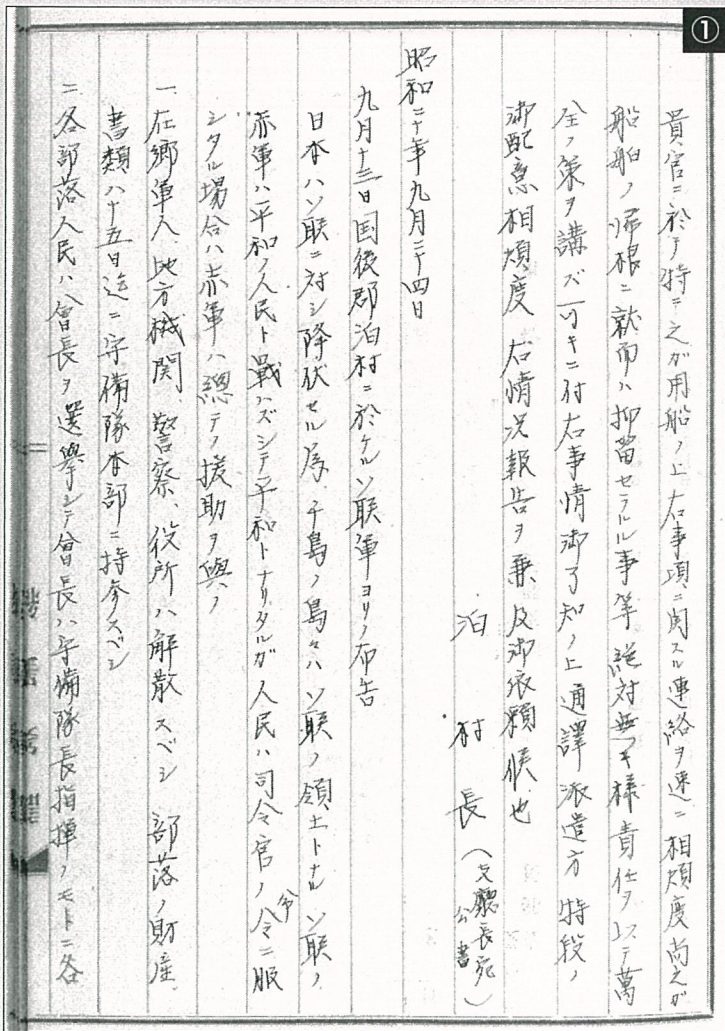
本資料集の刊行を歓迎し、研究者だけでなく、領土問題に関心をもつ人々に広く読まれることを願いたい。そして、領土研究の新たな地平が切り拓かれ、さらには問題解決へ向けた柔軟な思考が生まれることを期待してやまない。

（岩手県立大学教授）

本文見本

約65%に縮小してあります

- ① 昭和二〇年九月、国後島に関する報告（第一巻所収）
- ② 田中敏文（北海道知事）「千島返還懇請に関する所見」（第二巻所収）
- ③ 昭和三六年九月二八日、大量拿捕緊急対策住民大会「大量だ捕緊急対策についての陳情書」（第四巻所収）



千島返還懇請に對する所見

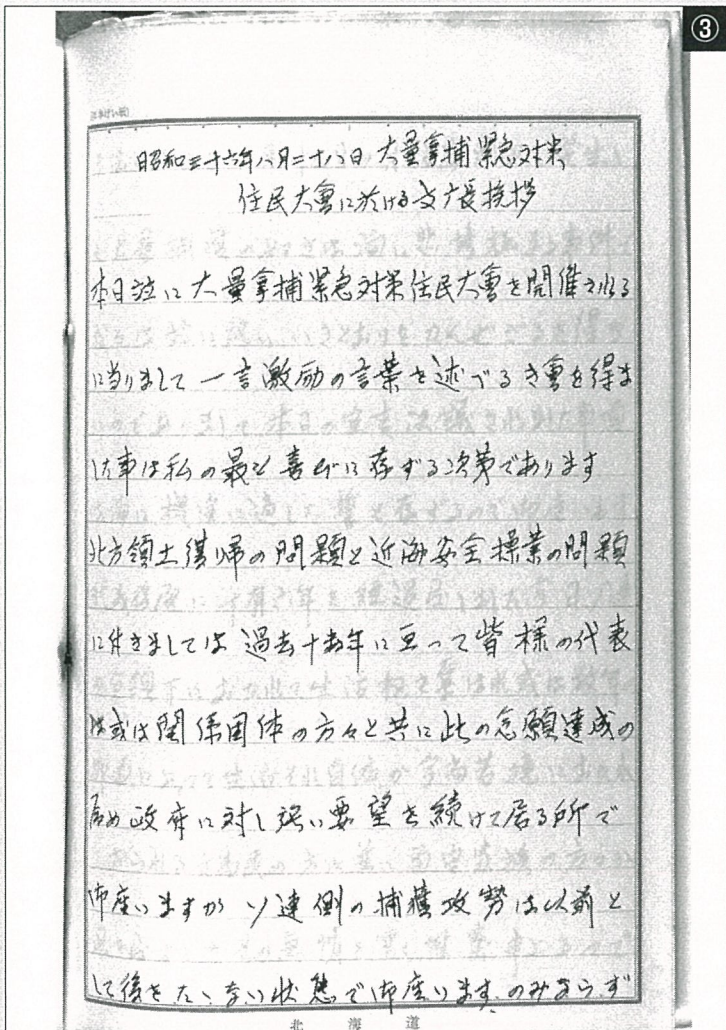
北海道知事 田中敏文

（一）、戦終つてこゝに五年、幸いに連合國の同情ある指導援助と國民の努力により漸く戦後の混亂期を切抜け次第に新しい日本再建に向つての曙光が見え初めたことは御同慶になえない次第である。この上は一日も早く講和條約が締結され獨立國として列國と共に人類の平和と進歩に力を盡す日の來ることを全國民齊しく祈つて止まないものである。

幸いに連合國に於てもかゝる方向に機運が熟しつつあるかに見られ、報部面に於ても講和條約につき稍々具體的な情報と論議が現われる様になつた。これ亦御同慶の至りである。

ついではこの際最も我々の關心を持つ事の一つは講和條約締結と共に決定せらるべき新日本の國境の問題である。願わくは公正にして妥當なる線に於て劃定せられ、永遠に紛争を斷ち、その中に於て我が國民も亦平和と進歩の生活を楽しみ得られる機會が與えられんことを切望して止まないものであるが、その中でも千島方面に於ける國境劃定の問題は最も大切なものの一つであると信ずる。

この問題については既に北海道民は勿論、各方面に於て熱心な希望が燃え上り、現實に二、三の運動さへ行われている。然



本書の特色と収録内容

●ソ連軍による千島占領を記録した日本側唯一の史料。

●戦後、北海道の行政における「北方領土」認識が形成される過程を示す。

●元島民からの陳情や歎願、集会の報告等を含み、初期の領土返還運動を記録する。

●第四巻に解説を収録し、史料解説の一助とする。

第一巻

「千島及離島ソ連軍進駐状況綴」

敗戦直後から昭和二二年春にかけての捉提、国後、色丹各島、歯舞諸島から根室支庁への電報、根室支庁から北海道庁への報告、脱出者からの聴取書等。

第二巻

「千島に関する資料」

昭和二五年三月、田中敏文（北海道知事）「千島返還懇請に関する所見」北海道議會「北海道附屬島嶼たる南千島及び歯舞諸島復歸懇請趣意書」／昭和二〇年一月二日「北海道附屬島嶼復歸懇請陳情書」「千島列島概況」等。

会議関係

昭和三十一年九月三日「領土復歸対策協議會状況」／昭和三十一年一月二六日「諸島返還協議會開催」／昭和三十一年

第三巻

「昭和三十一年度領土復歸關係書類」

昭和三十一年八月、參議院外務委員の視察「元島民からの「決意書」「歎願書」「色丹島齒舞諸島居住希望者状況」等。

第四巻

「自昭和三十三年陳情要望事項に関する綴」

昭和三十一年八月二〇日、北海道「千島齒舞諸島復歸に関する要望書」／昭和三四年八月「領土並に安全操業に関する根室管内の基本方針」／昭和三六年九月一日根室支庁「拿捕漁船に対する措置」／昭和三六年九月二八日、大量拿捕緊急対策住民大会「大量だ捕緊急対策についての陳情書」等。